

授業概要

この授業では、ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の作品の中から、イングランドの内線、いわゆる「薔薇戦争」の時代を描いた、一連の歴史劇から、代表的な場面を取り上げ、分析していく。また、作品のみならず、種本となった年代記などの記述を参照しながら、シェイクスピアがこの激動の時代を、いかに豊かに描き出し、壮大な演劇的世界を作り出したかも考察していく。

授業計画

第 1 回	イントロダクション：シェイクスピアの歴史劇
第 2 回	『リチャード二世』
第 3 回	『ヘンリー四世』 第一部①
第 4 回	『ヘンリー四世』 第一部②
第 5 回	『ヘンリー四世』 第二部①
第 6 回	『ヘンリー四世』 第二部②
第 7 回	『ヘンリー五世』
第 8 回	『ヘンリー六世』 第一部
第 9 回	『ヘンリー六世』 第二部
第 10 回	『ヘンリー六世』 第三部
第 11 回	『リチャード三世』 ①
第 12 回	『リチャード三世』 ②
第 13 回	シェイクスピアの歴史劇のアダプテーション①：舞台作品、映画など
第 14 回	シェイクスピアの歴史劇のアダプテーション②：漫画、アニメーションなど
第 15 回	まとめとフィードバック
第 16 回	

到達目標

文学作品の持つ可能性を最大限引き出すために必要なことを、授業の中で実践していく。歴史的背景や文化的背景を知ること、「ことば」をコンテキストに即して読むことの重要性を学んでいく。さらに、さまざまなことを幅広く学びながら、文学作品のより深い理解に欠かせない知識も蓄積していく。

履修上の注意

講義科目ではあるが、文学作品の読み方を身につけ、自分で読むという意味では、実習科目である。授業で使用するテキストは、翻訳を購入すること。また、授業中の携帯電話、スマートフォンなどの使用は厳禁とする。

予習・復習

予習として、テキストとして購入した翻訳を、丁寧に読むこと。また、復習として、授業で学んだことを活かして再読すること。またセリフは音読してみるとよい。さらに、授業で取り上げた毎回のテーマについて、自ら調べ、理解を深めるよう復習してほしい。

評価方法

予習復習の程度、授業への参加度、リアクション・ペーパー、確認テストなどを点数化し、学期末の筆記試験と合わせて、総合的に評価する。学期末試験50%、各種課題25%、授業への取り組み25%。

テキスト

主要作品の抜粋などは、プリントなどを用いるが、購入してもらったテキスト、参考図書については、授業中に、随時指示する。